

学生支援センター活動報告

大学での学生の成長は、正課教育とともに、正課外の諸活動によっても促されることが、現在までに種々の指針で明らかにされている。山口大学では、学生の日々の学修・生活環境を有形・無形に支援するとともに、正課外教育プログラムを作成し、学生自身へのフィードバックが行われるように努めている。本稿では、学生支援部学生支援課と大学教育機構学生支援センターによる、多様な学生支援の体制と実施状況について紹介する。

1 学生支援センターの目的

学生支援センターは、学生支援部学生支援課と協力して、「山口大学ビジョン 2015」に

記載された学生支援に関わる業務を遂行し、大学における生活、修学、健康維持および人間形成に資する正課外活動全般において学生の支援や安全管理を通じて、正課教育と合わせて充実した大学生活を送れるように支援することを目的としている。

【参考：学生支援センター規則 第二条 目的】

センターは、全学的立場から学生相談の対応、生活指導体制の充実、課外活動の支援、就職の支援及び就職情報の提供等の企画並びに実施を行い、もって山口大学の学生支援活動の充実発展に寄与することを目的とする。



2 組織とミッション

学生支援センターは、次の4つの部門により構成され、事務局学生支援部学生支援課と

緊密に連携しながら、「明日の山口大学ビジョン 2015」に掲げる基本理念の精神を尊重し、人材育成のための学生支援の充実を推進して

いる。

「明日の山口大学ビジョン 2015」(抜粋)

山口大学憲章の基本理念

3 公正・平等・友愛の尊重

私たち山口大学は，“山大スピリット”による他者への配慮と自らを律する倫理観のもとに、あらゆる偏見と差別を排し、公正と平等と友愛の精神を尊重します。

社会が求めるグローバル人材の育成

『“発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場”を創出し、さらにすべての大学人が地域や世界の人々とのあらゆる垣根を越えて多様性を許容し、共同・共育・共有の精神である“山大スピリット”を持って成長し続ける大学を目指します。そのため、社会の期待に応えるべく質の保証された国際通用性のある教育を展開し、常にその改善と充実に努めます。そして、この“知の広場”にて「課題解決力」、「自己研鑽力」、「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持ち、イノベーションを生み出すことができる人材を育成します。』

○学生支援体制の拡充

- ・山口大学創基200周年を契機に創設した「山口大学基金」を拡充し、教育・研究活動の支援はもとより、学生への経済支援や就職支援の充実、並びに地域貢献活動を推し進めます。
- ・障害のある学生の教育を受ける権利を尊重し、充実した学生生活を送れるよう全学的な支援体制を整備し、その支援を通して全ての学生の学びと成長に寄与する教育環境を構築します。
- ・スポーツ・文化活動、ボランティア活動等の正課外活動を大学が組織的に支援することにより、学生の自主的・自律的な学修を促進し社会人を育成します。

○キャリア形成支援

- ・学生のキャリア形成を推進するため、多彩な学習の場を提供し、キャリアの理論の理解と実践力、経済・社会の理解と実践力を身につけ、社会人基礎力を養います。

2.1 学生生活支援部

2.1.1 学生支援課：学生生活支援

- ・学生への経済支援

学生サービス係において、従来からの入学料免除及び授業料免除に加えて、山口大学基金による奨学金の選考を行うとともに、学外団体からの奨学金等の情報を適宜各学部配信しているが、特定の部局を指定するようなものは、当該学部配信している。また、授業料免除対象者を対象に学内ワーキングアシスタントの業務を紹介している。後述の学生特別支援室による学内バリアフリー状況の点検等においては、毎年、学生の視点からの種々の問題が提起されている。学内食堂における、新入生を対象とした楽器初めのワンコイン朝食の提供や、留学生へのハラルメニューの提供等、学内の民間組織によるサービス提供についても運営組織と適宜協力して実施している。

- ・学生寮の管理運営

支援企画係において、寮自治会の総務担当学生と協議しながら活動を支えている。また、毎年1回、吉田地区の寮自治会と大学教育機構長、学生支援センター長および在山区区教学委員との懇談会を開催し、寮をとりまく問題点、改善点などの情報を共有している。

- ・課外活動支援

体育会・文化会あるいは、同好会等多数の自主サークル活動に対して、大学内諸施設の充実による活動場所の整備を通して支援している。また、毎年1回、体育会、文化会と学

長・大学教育機構長の懇談会に陪席するとともに、その時々、山口大学生をとりまく課題について情報共有をしている。体育会に所属する運動部に関しては、新たに設立された、一般社団法人 大学スポーツ協会（通称 UNIVAS）に関して紹介するとともに、今後の UNIVAS の企画等を山口大学の運動部が適切に利用できるような条件整備を行う必要がある。山口県立美術館キャンパスメンバーズ加入により、学生および教職員による利用を促進している。

2.1.2 自主活動ルーム：学生正課外活動支援

文部科学省は、大学を、専門的知識や技術の修得だけでなく、コミュニケーション能力や積極性、自主性など多面的な特性を「学士力」あるいは「社会人基礎力」とみなして全人的な教育を受け、成長する場としての性格付けを強めている。この点で、専門的領域の業績を中心に選考される学部／大学院教員では対応不可能な問題をも大学内で取り扱うことが要求されるようになった。山口大学ビジョン 2015 では、これに対応し、正課外の活動や学習が社会人力の涵養に不可欠なものとして定義している。学生支援センターに自主活動ルームを設け、それらの活動をサポートしている。

自主活動ルームでは、学外からのボランティア募集のワンストップ窓口として活動内容を精査・選別し、学外ボランティア活動における学生の安全の確保等指導・助言を行っている。特に、コーディネーターをおくことで、ボランティア学生を単なる労働力として紹介するのではなく、学生自身にとってもボランティアに参加することで、全人的な成長が見込まれるような企画を選定している。本年度開催された山口ゆめ花博の一連のボランテ

ィア活動の紹介も、山口県の担当窓口と協議のうえで、このようなスタンスで行った。関西地区の地震や夏場の豪雨災害の復旧に関するボランティア希望があったが、衝動的な参加ではなく、災害普及に関する十分な知識と対応を事前に勉強することを勧めた。このような姿勢は、今後も継続すべきであると考え

る。自主活動ルームでは、ボランティア紹介だけでなく、種々の学生たちの企画と実践もをサポートしている。また、創設 22 周年を迎えた「おもしろプロジェクト」も、自主活動ルームが所管して運営している。「おもしろプロジェクト」では、より多くの学生がちよっとした思い付きを気軽に企画化できるように、昨年度から Light 型とテーマ型を設けた。ボランティア紹介、おもしろプロジェクト、その他の活動を通して、自主活動ルームには年間延べ延べ 2000 人以上の学生が来室し、教職員・学外者を含めると 3000 人以上が来室している。

これらに加え、自主活動ルームは、既報のとおり¹⁾、学生相談所、学生特別支援室および就職支援室と協力して、学生の「居づらさ」「学びにくさ」を解消するためのサポートを実質的に行っている。このような細やかな「気づき」の積み重ねも、自主活動ルームの教員・コーディネーターの仕事である。

*石井智子・辻多聞・横山和平. 学生自主活動ルームにおける学生支援と課外活動—コーディネーターの視点からの考察—, 大学教育 No. 14, 48-55. 2017.

2.2 就職支援センター：山口大学学生のキャリア形成支援

山口大学は、地域、企業、官公庁等をステークホルダーとして、それらの期待に添うべ

く質の保証された教育システムを構築し、卒業生を輩出している。

就職支援室は、単に学生の就職先選びのアドバイザーではなく、学生が卒業後、どのような目的と理想をもって自分自身の人生を開拓すべきかを自ら考える力を養う「キャリア形成支援」も重要な業務としている。このため、共通教育科目に「キャリア科目」開設すると同時に、YU-APの中で就職支援室が行う正課外教育プログラムを用意している。

このような学生の卒業後のキャリア形成および進路選択を支援するために、全学的には、学内業界・企業研究会を定期的に開催するとともに、「農学部 day」、「情報 day」のように各部局の専門性に応じてアレンジし、在籍学生の志向性に寄り添った企画を設ける工夫もしている。

また、山口型インターンシップに事前／事後学習を含めて学生を参加させるとともに、個人的に参加するインターンシップについても個別に指導している。

本学入学者の出身地域は山口県及び隣県で過半数を占め、地方大学の特色が強い。更に、COC+事務局の調査では、本学学生の多くが出身地域またはその近隣への就職を希望しているとの結果がある。また、現在続く好景気のため、大学生の就職は売り手市場になっている。このため、以前と比べて全国の企業関係者が参加する学内業界・企業研究会への参加学生数が減少傾向にある。出身地への回帰の傾向と相まって、学生のキャリア形成に対する視野の狭隘化が危惧される状況にある。

一方で、在学中の貸与型奨学金の返済が滞る事案が、全国で発生している。山口県では、山口県高度産業人材奨学金返還補助制度があり、学生により広く広報していく必要がある。

2.3 学生相談部

学生相談所：学生のメンタル的不調に対する支援

学生のメンタル不調による就学上の問題点や不登校について、学生に寄り添うことで緩和・解消を目指している。現在、山口大学 3 キャンパスにカウンセラーを配置しているが、3 キャンパスでの相談対応回数は年間 2500 件以上にのぼる。相談の経路は、入学前相談、入学後の学生自身による相談あるいは、教職員からの情報提供等、多様であり、また、修学等のためには、学生の許可を得たうえで学部教員と連携するなど、学部との連携は必要に応じて行われている。

また、相談の内容によっては、保健管理センター医師や学生特別支援室とも連携・分担し、相談者にとって最も効果的な対応を模索している。相談件数の推移については、毎月の教学委員会にデータを提示している。特徴的な事例、相談対応の上での気づきや、新たな相談対応の潮流などについては、山口大学学生相談所年報において、個人情報に配慮しつつ、カウンセラーがまとめている。

2.4 学生特別支援室

学生特別支援室：障害のある学生に対する修学支援

障害のある学生の修学支援のための、合理的な支援体制を学部と協力して確立する。入試前の受験相談、入試における特別措置、入学後の修学のための支援体制の確立等を学生一人一人の事情に合わせて調整している。そのために、支援申請制度を整え、学部との連携により授業中の「配慮願」を適宜授業担当者へ配付している。平成 30 年度からは、学生特別支援室の宇部分室が本格稼働し、キャンパス間の連携体制の強化も進んでいる。現在、

年間 2000 件以上の相談対応を行っている。相談の内容は修学に関するものを主として受け付けているが、学生相談所や保健管理センターとも緊密に連携している。

なお、障害を持つ学生の就職においても、就職支援室と協力して、対応している。今後も、修学から就労へのスムーズな移行を目指して、進路選択や自己理解、就労に必要な社会的スキルの習得のために、学内インターンシップ等の支援を拡充する予定であり、これまでに、障害者の就労移行に実績を持つ学外機関による講演会を 3 回開催するとともに、個別相談の場を設けている。

支援ニーズの多様化、カリキュラムの高度化、授業形式のアクティブ・ラーニング化等により、特に配慮要領を工夫すべきケースが発生しており、支援方法の開発に努めながら、障害学生・授業担当教員・授業開講部局などの関係者間で合意形成を計っていく必要性が増している。また、障害者支援を理解し、支援に必要なスキルを持った学生スタッフや教職員を正課教育科目や正課外教育プログラムを通じて養成する。

現在、県内の大学間の障害学生支援ネットワークの創設を計画しており、支援事例の共有や、人的・物的な協力体制を確立する予定である。

3 正課外教育プログラム

山口大学生は、各学部のアドミッションポリシーに則った入学試験を経て、それぞれの学部・学科・コースのカリキュラムポリシーに沿った教育課程で学修し、専門的知識を身に着ける。卒業時、各学部において、共通教育と学部での専門教育を一貫して形作られているディプロマポリシーを満たすことで、山口大学の卒業生として社会に巣立っていく。

これらの課程が正課教育である。しかしながら、社会での多様な価値観や複雑な人間関係に直面した時でも、自分を見失わず、多様性を受け入れつつ、自己のアイデンティティを発揮し行動するためには、正課教育プログラムだけでは涵養し難い、より多面的な能力が必要となる。

大学における学生生活では、いわゆる部活やサークル活動など、正課外活動が盛んであるが、これらの活動は団体の最終目標が明確であり、目標達成に向けたスキル向上の活動の中で社会性や対人スキルを磨くこととなる。これらの活動とは異なり、「正課外教育」プログラムでは、参加学生には、より自由度の高い企画が許されている。その一方で、活動の道筋や自身の取り組み、あるいは達成度などを自分で振り返り、自己評価し、そこでの客観的な反省を得るために、ある程度教員が関与してプログラムの特性を紹介するとともに、アンケートなどで振り返りの機会を設けている。そこで得られた自己評価の方法や評価結果を、例えば、正課課程や、正課外活動へのより積極的・自主的な取り組みとして、あるいは、卒業後の社会での個々の能力を發揮するためのスキルの一端として具体的に生かす能力を磨かせる工夫がなされている。現在、学生支援センターでは、自主活動ルーム、学生特別支援室、就職支援室を合わせて 15 課題の正課外教育プログラムを用意し、それらのシラバスを公開して、自主活動ルーム等を通じて参加を促している。

【注】

- 1) 石井智子, 辻多聞, 横山和平, 学生自主活動ルームにおける学生支援と課外活動—コーディネーターの視点からの考察—, 大学教

育 No. 14, 48-55, 2017

文責：学生支援センター長・大学院創成科学
研究科 教授 横山 和平